

2020年度コロナ禍の旅行実態は？ 「じゃらん宿泊旅行調査2021」 全国＋北海道・九州・沖縄エリアの最新分析

2021年7月21日

株式会社リクルート ジャらんリサーチセンター センター長 沢登 次彦



(C) Recruit Co., Ltd. All rights reserved.





じゃらんリサーチセンター センター長

沢登 次彦 (さわのぼり つぐひこ)

じゃらんリサーチセンター センター長
研究冊子「とーりまかし」編集長

1993年4月株式会社リクルート入社。

教育機関広報事業部を経て、2003年4月に国内旅行事業部へ。

関東近郊観光地のエリアプロデューサーとして地域活性に携わる。

2007年4月より現職。

観光庁を始め中央省庁や地方自治体の各種審議会委員を務め、
講演・研修等を行う。

「じゃらん宿泊旅行調査」とは…

- 毎年7月発表
- 日本全国で行われている観光宿泊旅行の動向を調べるための、17回目を迎える経年調査です

「じゃらん宿泊旅行調査」の特徴

- ① 観光宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などは除く宿泊旅行）に特化
- ② 経済波及効果を把握できる質問項目設計（費用項目など）
- ③ 上記内容を都道府県単位で分析（県別カルテ）、さらに都道府県よりもう一段階詳細な観光地単位で分析可能
- ④ 2020年度（2020年4月～2021年3月）の動向の最新版

調査方法

- インターネット調査

調査対象

- 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの調査モニター）

調査時期

- 2021年4月1日（木）～22日（木）

調査対象

- 2020年4月～2021年3月末までの国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）

集計対象数

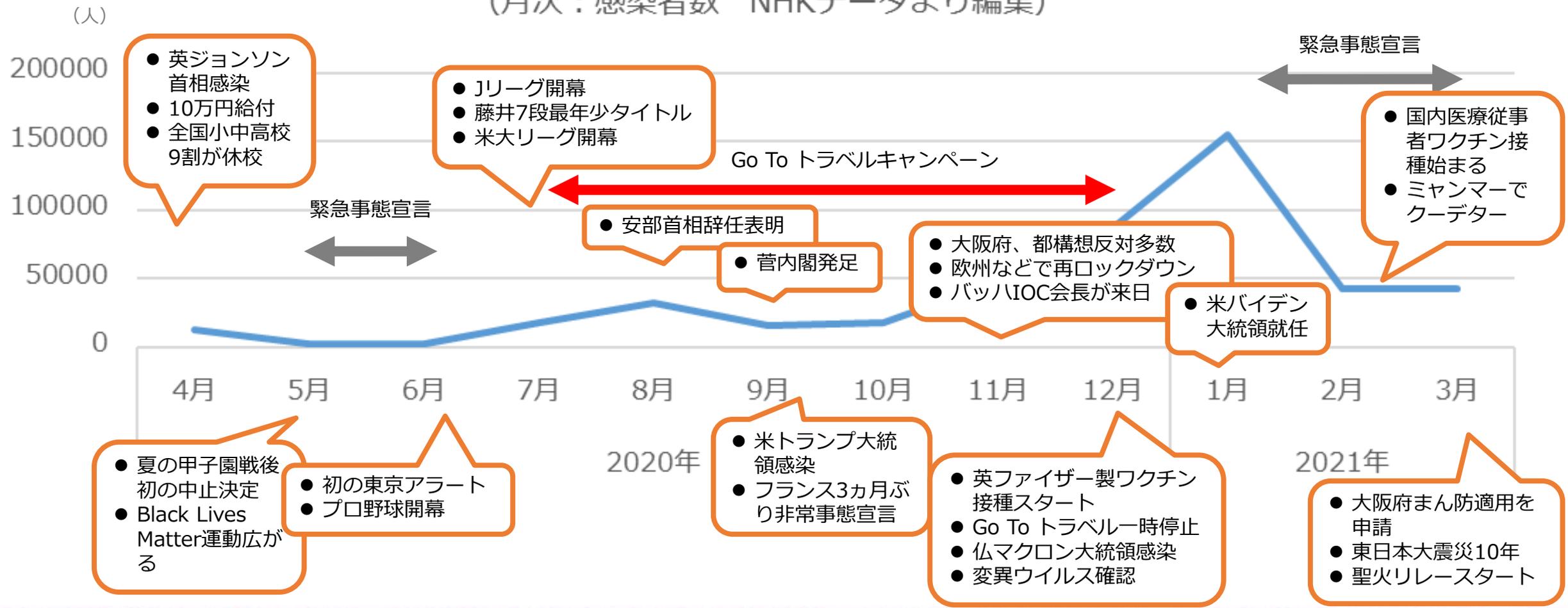
- 1万5,719名（旅行件数ベース2万8,218件）

※集計・分析手法について

はじめに令和元年10月1日現在人口推計（総務省統計局発表）および1次調査結果を用いて、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県・性年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

新型コロナウイルス感染症 日本国内の感染者数推移

(月次：感染者数 NHKデータより編集)



①市場の動き

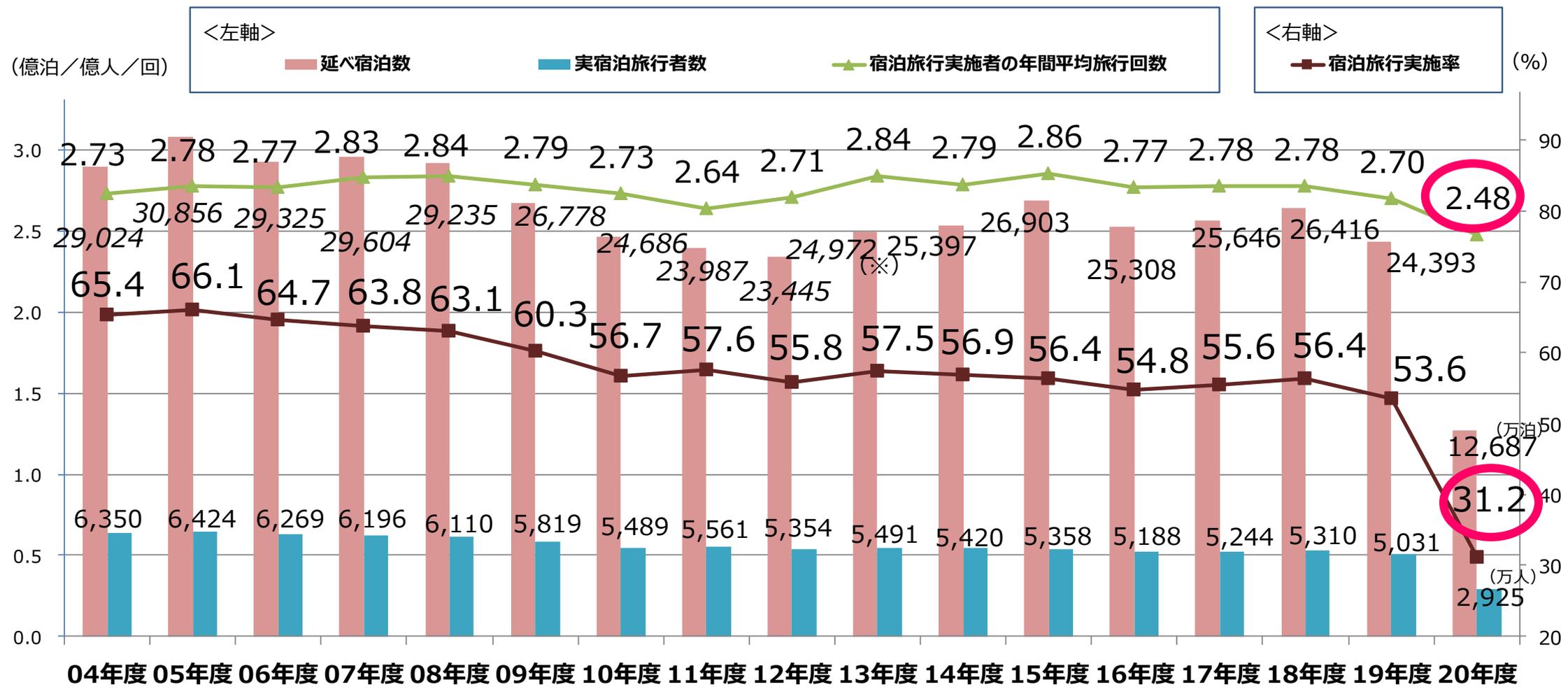


国内宿泊旅行実施率と延べ宿泊数、平均旅行回数 of 推移

- 国内宿泊旅行実施率は前年度53.6%から31.2%へ大幅減少、過去最低値。
- 年間平均旅行回数は2.48回にとどまる。

国内宿泊旅行実施率、延べ宿泊数、実宿泊旅行者数、宿泊旅行実施者の平均旅行回数

※ 延べ宿泊数 = 人口 × 旅行実施率 (= 実宿泊旅行者数) × 年間平均旅行回数 × 泊数
 ※ 宿泊数の設問形式を14年度から変更したため、13年度以前の延べ宿泊数(斜体の部分)とは直接比較できない



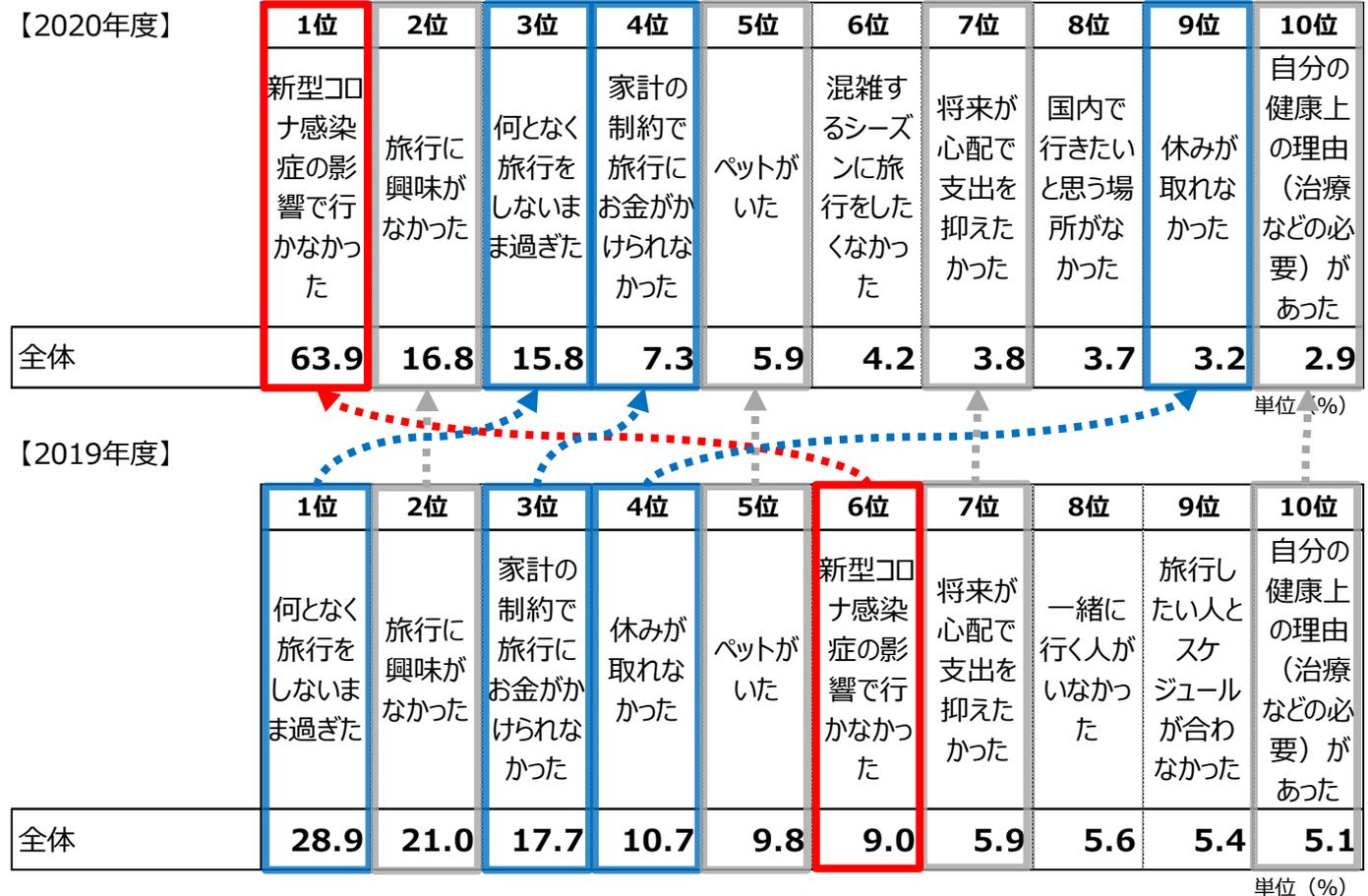
性年代別 国内宿泊旅行実施率の推移と国内宿泊旅行に行かなかった理由

- どの世代においても、19年度から20pt前後と大幅に減少。
- 特に減少幅が大きいのは35～49歳／女性（▲25.0pt）、50～79歳／女性（▲23.7pt）。女性やミドル層での減少が目立つ。
- 国内宿泊旅行に行かなかった理由は「新型コロナウイルス感染症の影響で行かなかった」（63.9%）が1位。

■ 国内宿泊旅行実施率 性年代別の経年比較

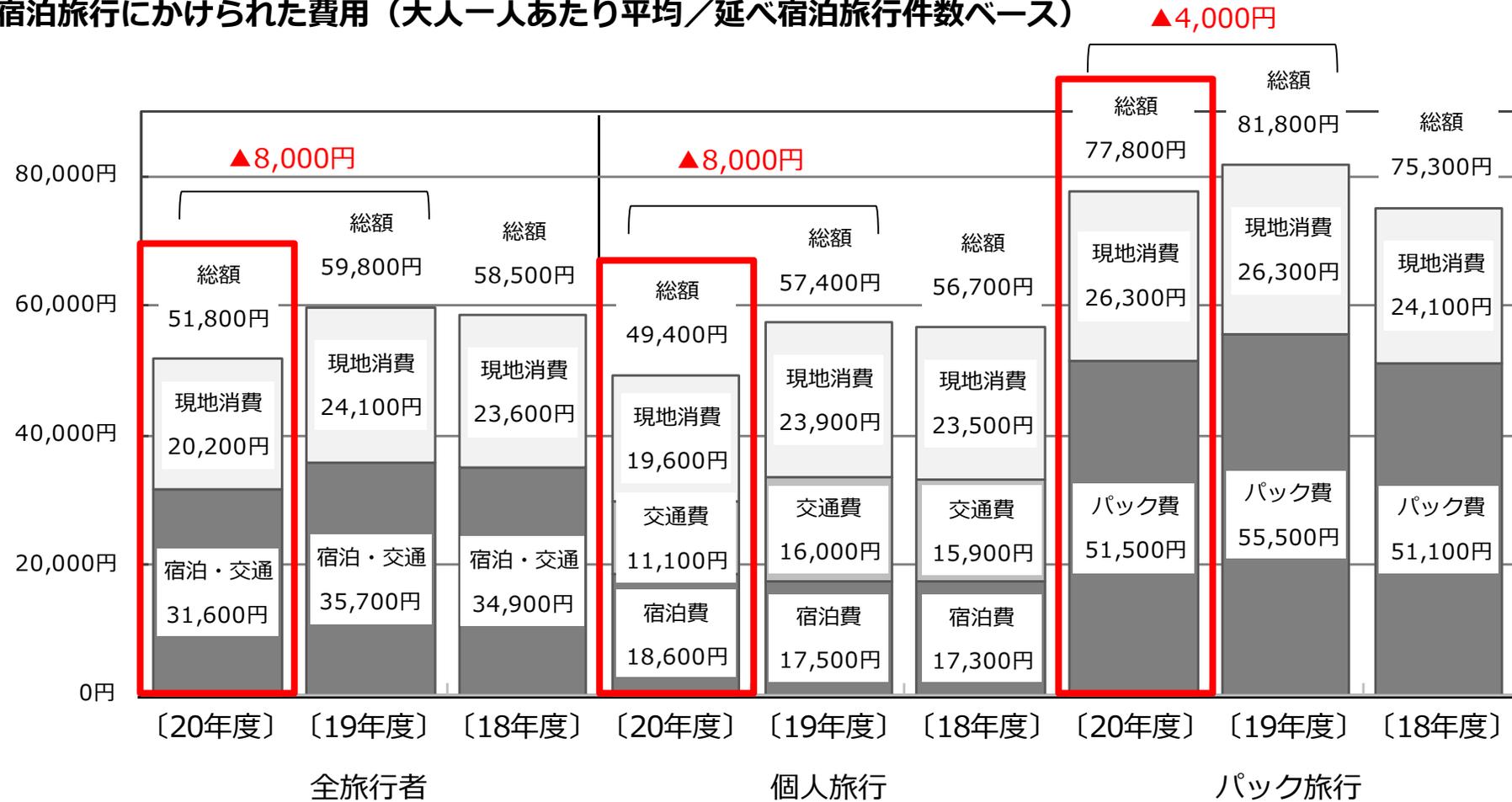
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	20-19年度 (%)
全体	54.8	55.6	56.4	53.6	31.2	▲ 22.4
男性 / 20～34歳	51.7	54.8	56.2	55.1	35.7	▲ 19.4
女性 / 20～34歳	60.3	60.5	64.3	61.4	39.1	▲ 22.3
男性 / 35～49歳	52.0	53.3	53.5	53.5	31.4	▲ 22.1
女性 / 35～49歳	53.8	55.5	56.2	52.1	27.1	▲ 25.0
男性 / 50～79歳	55.0	54.7	54.8	51.4	30.2	▲ 21.2
女性 / 50～79歳	55.6	56.1	56.8	52.9	29.2	▲ 23.7

■ 国内宿泊旅行に行かなかった理由（2020年度国内宿泊旅行非実施者／複数回答）



国内宿泊旅行の費用総額

- 総額で51,800円、20年度より8,000円減少。宿泊・交通は▲4,100円、現地消費は▲3,900円。
- 個人旅行では総額49,400円、▲8,000円だが、内訳をみると宿泊費は1,100円のプラス。一方、現地消費（▲4,300円）、交通費（▲4,900円）の落ち込みが大きい。
- 一回あたりの宿泊旅行にかけられた費用（大人一人あたり平均／延べ宿泊旅行件数ベース）



※ 現地消費：旅行中に、現地で消費した費用の合計。買い物、飲食、体験・観光、移動のなかで、実施した行動の費用の合計を指す。ただし、宿泊プラン・ツアーに含まれていた費用は除く

性年代別 国内宿泊旅行の費用総額

- 費用は全体的に減少、個人旅行における宿泊費のみ上昇傾向。
- ミドル層、特に女性は減少幅が大きい。オンシーズンの旅行減少や、近場旅行、旅行形態の変化が影響している。

■ 一回あたりの国内宿泊旅行にかけられた費用（平均） 性年代別 前年度比較

	宿泊旅行の総額			個人旅行の場合				パック旅行の場合		
	総額	宿+交通費	現地消費	総額	宿泊費	交通費	現地消費	総額	パック費	現地消費
全体	51,800	31,600	20,200	49,400	18,600	11,100	19,600	77,800	51,500	26,300
男性 / 20~34歳	58,600	35,600	23,000	56,900	20,100	14,200	22,500	82,900	53,500	29,400
女性 / 20~34歳	49,000	29,400	19,600	47,600	18,300	10,300	19,000	68,300	41,200	27,100
男性 / 35~49歳	50,000	30,000	20,000	49,000	17,600	11,800	19,600	64,500	39,000	25,500
女性 / 35~49歳	45,500	27,800	17,700	43,900	18,000	8,600	17,300	65,200	42,500	22,700
男性 / 50~79歳	53,200	32,000	21,200	50,400	18,100	11,900	20,500	84,600	55,400	29,200
女性 / 50~79歳	52,400	32,900	19,500	48,400	19,400	10,200	18,800	82,400	57,700	24,700

単位（円）

■ 全体平均より5,000円以上多い場合

■ 全体平均より5,000円以上少ない場合

<前年度との差>

	宿泊旅行の総額			個人旅行の場合				パック旅行の場合		
	総額	宿+交通費	現地消費	総額	宿泊費	交通費	現地消費	総額	パック費	現地消費
全体	▲8,000	▲4,100	▲3,900	▲8,000	+1,100	▲4,900	▲4,300	▲4,000	▲4,000	0
男性 / 20~34歳	▲4,200	▲1,900	▲2,300	▲4,700	+1,500	▲3,700	▲2,600	+4,600	+4,300	+300
女性 / 20~34歳	▲7,700	▲4,200	▲3,500	▲7,600	+2,100	▲5,800	▲3,800	▲4,400	▲5,100	+700
男性 / 35~49歳	▲8,500	▲4,100	▲4,400	▲6,700	+700	▲3,200	▲4,200	▲33,200	▲25,400	▲7,800
女性 / 35~49歳	▲11,600	▲6,200	▲5,400	▲10,000	+800	▲5,600	▲5,300	▲21,500	▲15,700	▲5,700
男性 / 50~79歳	▲9,100	▲5,600	▲3,500	▲9,400	0	▲5,400	▲3,900	▲2,800	▲5,300	+2,500
女性 / 50~79歳	▲7,100	▲2,700	▲4,400	▲8,500	+1,700	▲5,000	▲5,200	+6,400	+4,600	+1,800

※100円未満を切り捨てた金額で差額を算出

単位（円）

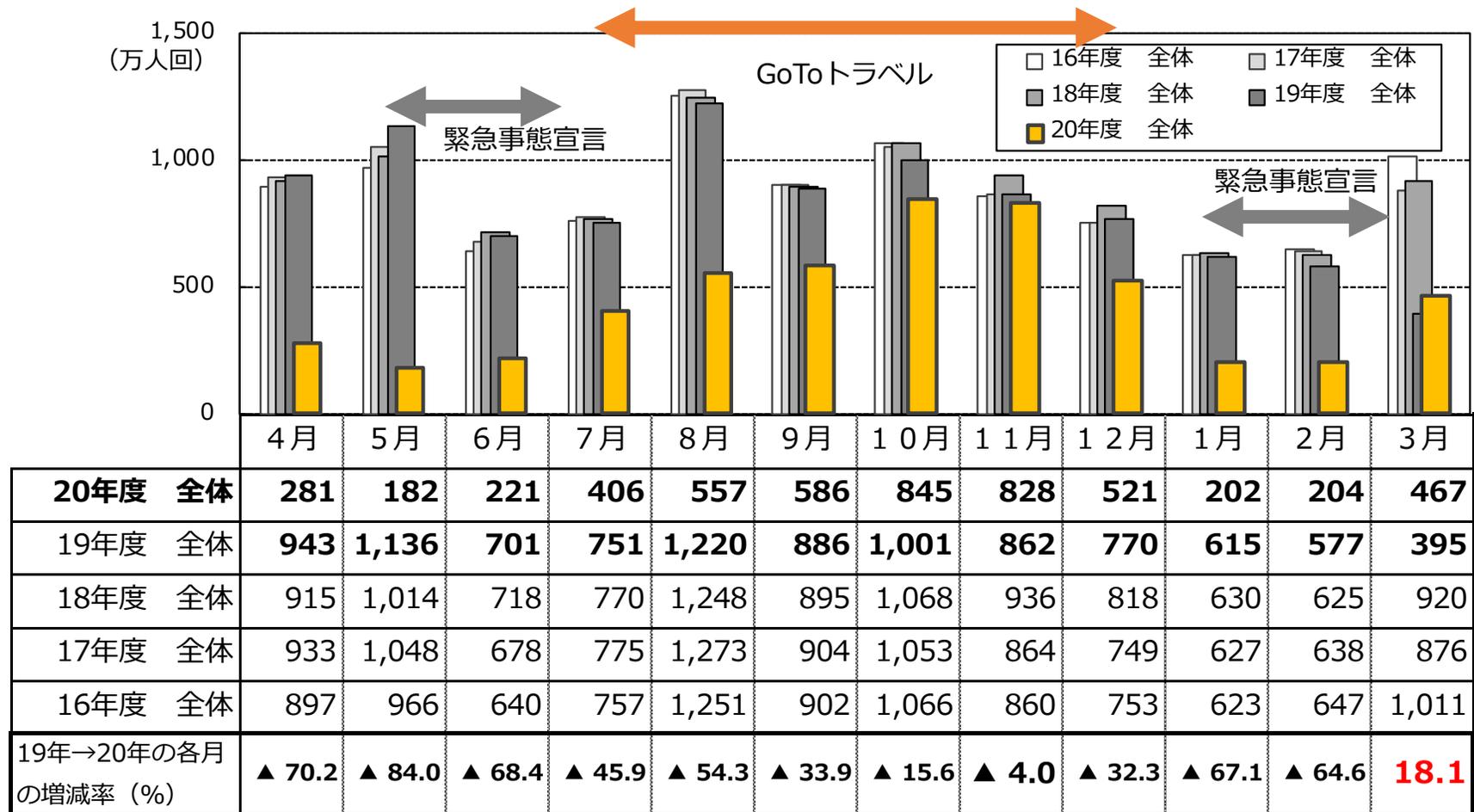
②国内宿泊旅行実態



国内宿泊旅行の時期

- 緊急事態宣下の4～5月は前年度比で7割から8割減と減少幅が最も大きい時期。一方、11月はほぼ前年度レベルに持ち直していた。また、3月は前年は既に感染拡大が始まっていたころであり、20年度はむしろ前年度を上回る結果となった。

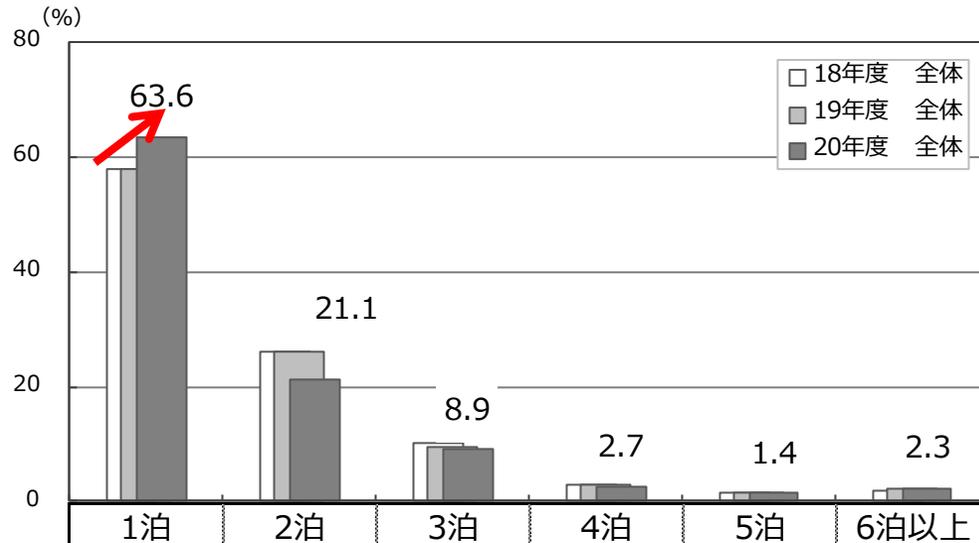
■ 国内宿泊旅行の時期（単一回答／3回までの延べ宿泊旅行件数ベース／旅行件数）



宿泊数、旅行日

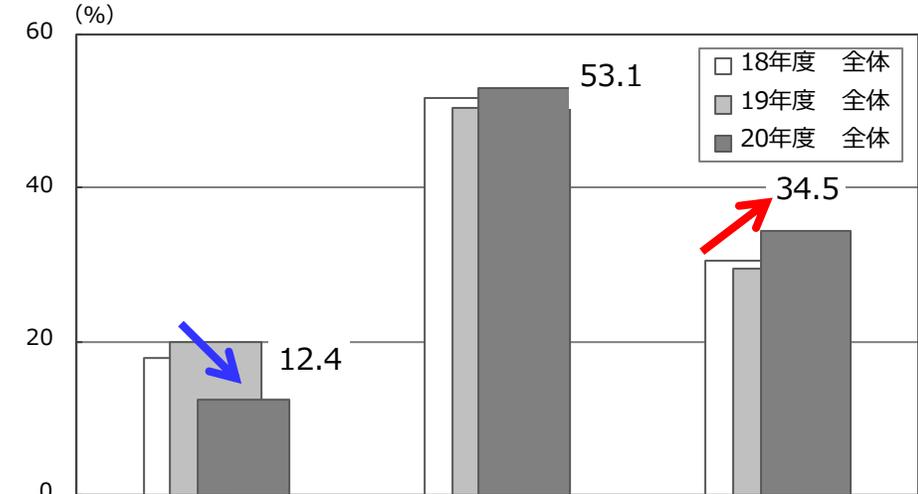
- 宿泊数については、ここ数年長期化の傾向が見えたが、20年度は「1泊」が6.7pt増加。「6泊以上」は変化なし。
- 「夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行」が7.5pt減少、「平日のみを利用した旅行」が4.9pt上昇し、オンシーズンの旅行比率が下がった。

■ 宿泊数（単一回答／3回までの延べ宿泊旅行件数ベース）



	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊以上	平均
20年度 全体	63.6	21.1	8.9	2.7	1.4	2.3	1.75泊
19年度 全体	56.9	26.4	10.0	3.0	1.6	2.1	1.80泊
18年度 全体	57.8	26.0	10.0	2.9	1.4	2.0	1.78泊
17年度 全体	57.9	26.1	9.7	2.8	1.6	1.9	1.76泊
16年度 全体	57.7	26.4	9.5	3.0	1.6	1.9	1.76泊

■ 旅行日（単一回答／3回までの延べ宿泊旅行件数ベース）

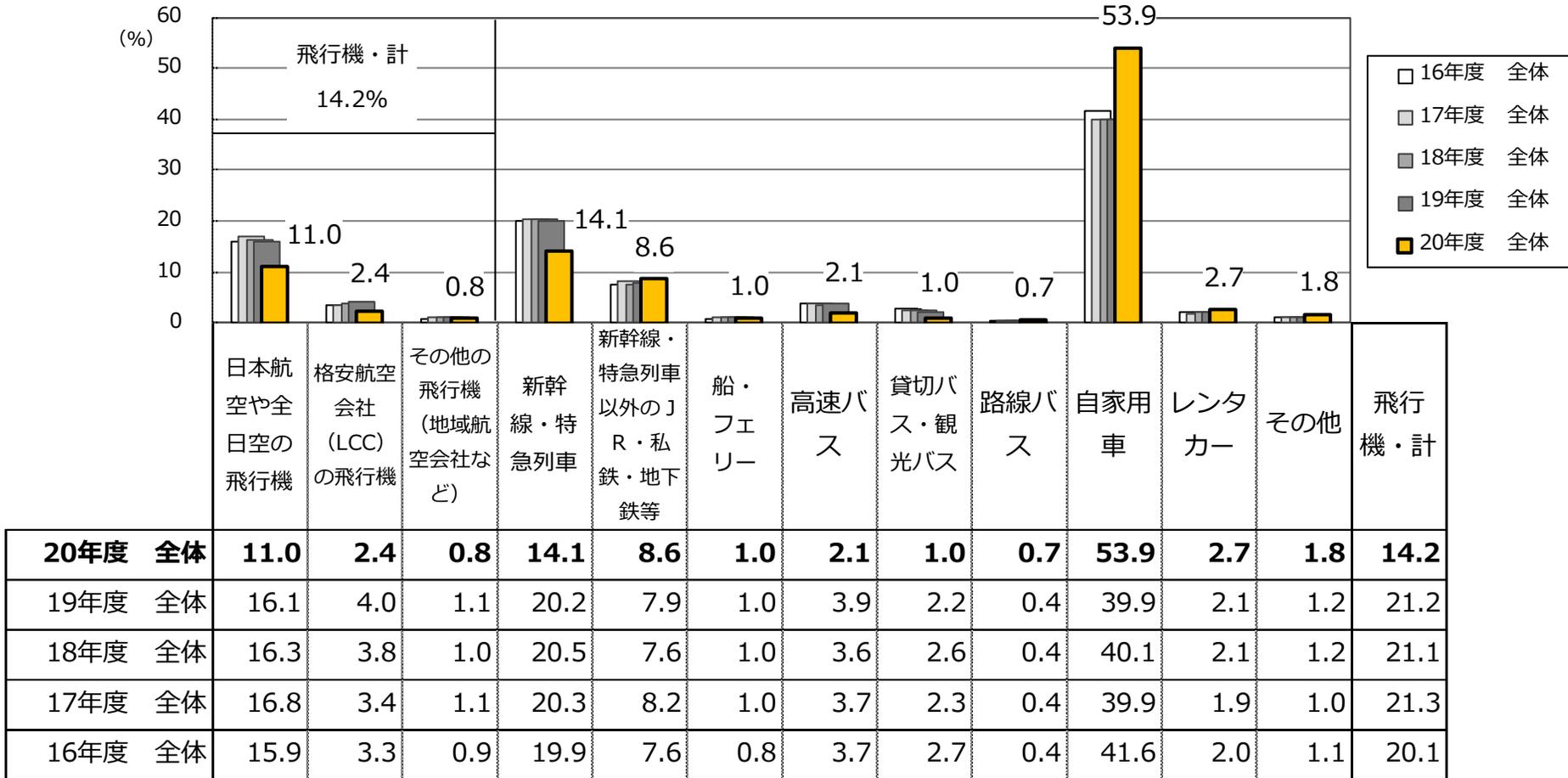


	夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行	土日や祝日を含んだ旅行	平日のみを利用した旅行
20年度 全体	12.4	53.1	34.5
19年度 全体	19.9	50.5	29.6
18年度 全体	17.9	51.7	30.5
17年度 全体	18.3	49.9	31.8
16年度 全体	17.8	51.8	30.4

一次交通手段

- 自家用車が53.9%と半数を超えた。一方、飛行機や列車などの公共交通機関は減少。

■一次交通手段（単一回答／3回までの延べ宿泊旅行件数ベース）

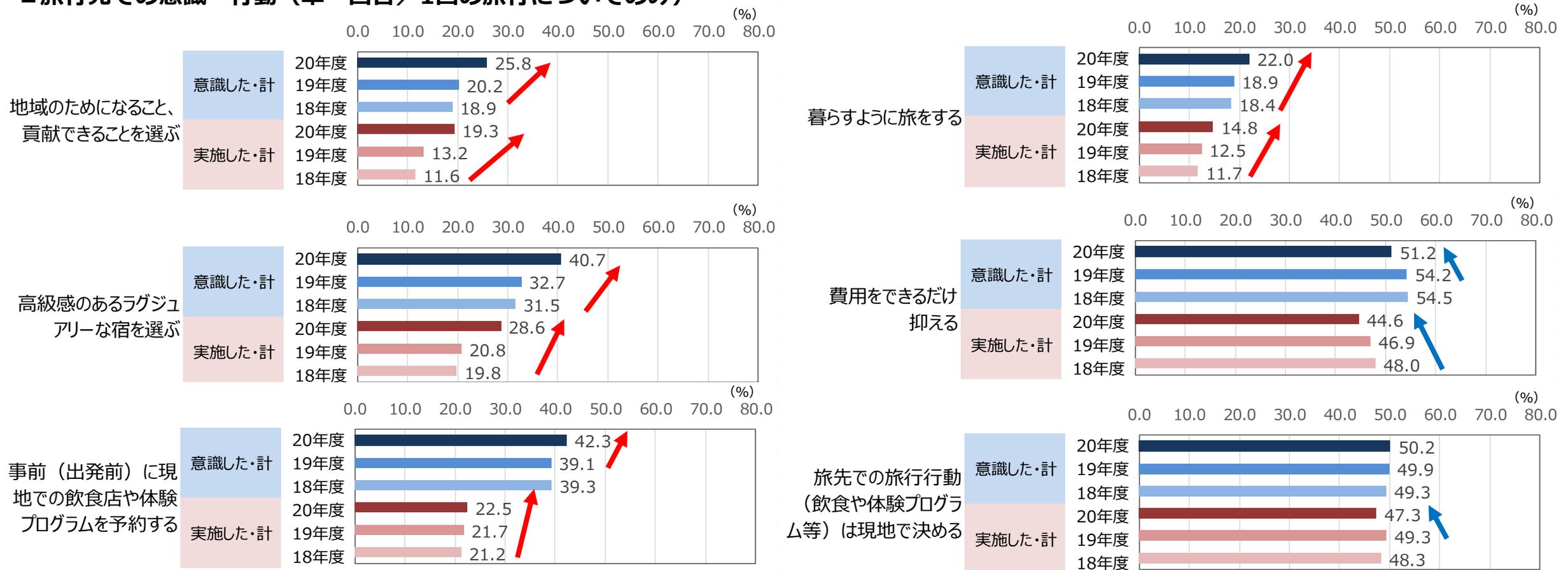


※その他にはタクシー・ハイヤー、バイク、レンタサイクルを含む

旅行において意識したこと（旅行先での意識・行動）

- 「地域のためになること、貢献できることを選ぶ」「暮らすように旅をする」など地域密着型の旅行スタイルが増加。一方「費用をできるだけ抑える」が減り、「高級感のあるラグジュアリーな宿を選ぶ」が上昇。
- 「事前（出発前）に現地での飲食店や体験プログラムを予約する」も増加傾向。

■旅行先での意識・行動（単一回答／1回の旅行についてのみ）

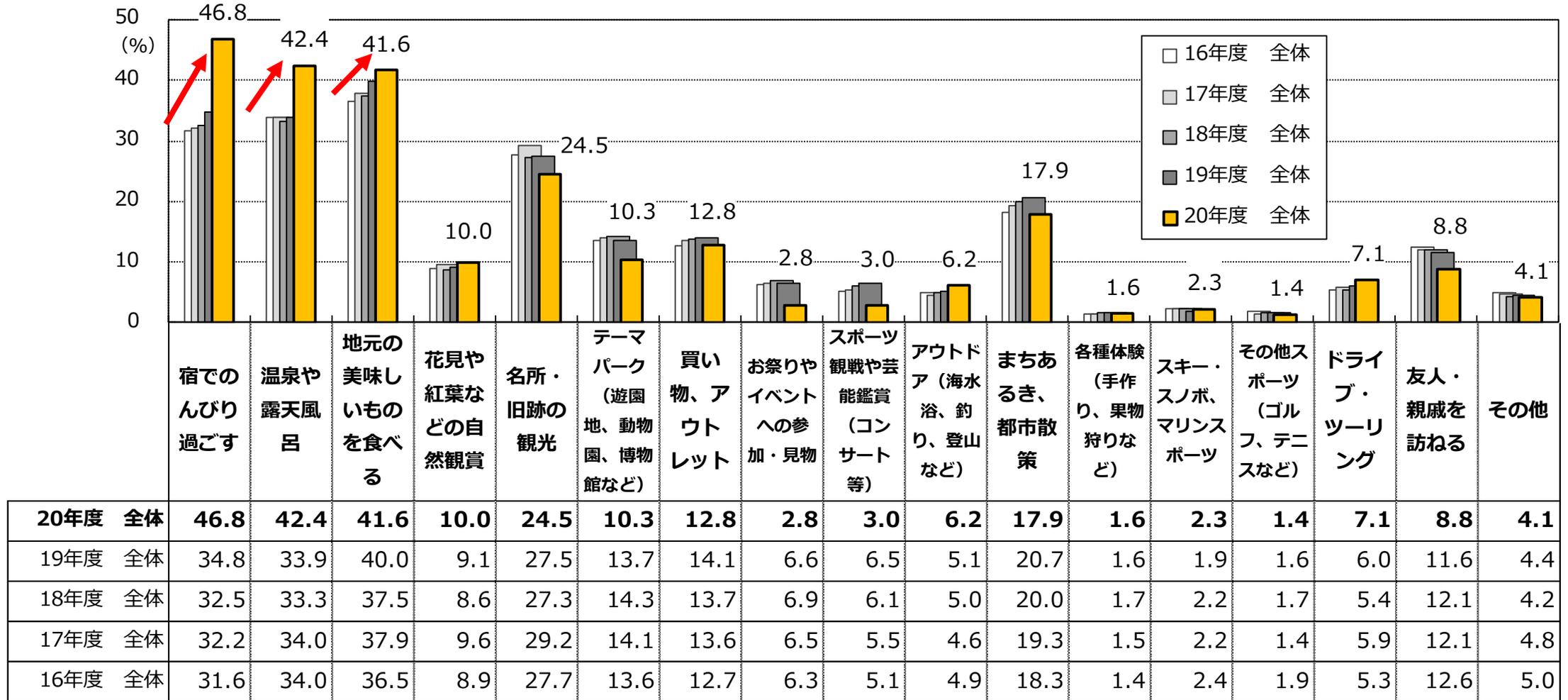


※ 実施した・計 = 「意識して、実施した」「意識しなかったが、実施した」を合わせた割合
 ※ 意識した・計 = 「意識して、実施した」「意識したが、実施しなかった」を合わせた割合

宿泊旅行の目的

- 「宿でのんびり過ごす」が大きく上昇して1位に。2位の「温泉や露天風呂」も10pt近く上昇。3位の「地元の美味しいものを食べる」は徐々に上昇してきている。対して減少したのは「名所・旧跡の観光」「まちあるき、都市散策」など。

■ 宿泊旅行の目的（複数回答／延べ宿泊旅行件数ベース）



国内宿泊旅行の同行形態

- 「夫婦二人での旅行」が3割を占め、前年度から4.5pt増加。「友人との旅行」が2.6pt減少。
- 「一人旅」は17.8%で、ここ数年の増加傾向はストップ。

国内宿泊旅行の同行形態（単一回答／延べ宿泊旅行件数ベース）

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	子連れ家族旅行	小学生以下家族旅行	中学生以上家族旅行	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他	(%)
〔20年度〕 全体	17.8	9.4	29.7	11.6	4.3	8.1	7.5	9.9	0.9	0.8		
〔19年度〕 全体	18.6	8.2	25.2	11.5	4.2	8.4	7.9	12.5	2.5	1.1		
〔18年度〕 全体	18.0	7.8	25.2	12.0	4.5	8.4	7.8	12.8	2.7	1.0		
〔17年度〕 全体	17.2	7.3	25.7	11.1	4.5	8.9	8.4	12.7	2.9	1.2		
〔16年度〕 全体	17.2	7.0	25.5	11.8	4.3	8.5	8.3	13.1	3.2	1.2		
〔04年度〕 全体	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0		

性年代別 国内宿泊旅行の同行形態

- 「一人旅」は男性/20～34歳での減少幅が大きく、この世代では「恋人との旅行」や「夫婦二人での旅行」などのシェアが増加している。
- 女性/50～79歳は「夫婦二人での旅行」が9.1pt上昇。一方「一人旅」や「友人との旅行」が3pt以上減少した。
- 国内宿泊旅行の同行形態（単一回答/延べ宿泊旅行件数ベース）

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子連れ家族旅行	中学生以上の子連れ家族旅行	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他
全体	17.8	9.4	29.7	11.6	4.3	8.1	7.5	9.9	0.9	0.8
男性 / 20～34歳	26.0	20.4	12.7	10.2	1.0	11.0	1.9	15.0	1.6	0.4
女性 / 20～34歳	11.0	22.0	18.1	11.3	0.2	15.3	4.0	16.7	0.8	0.6
男性 / 35～49歳	27.1	9.0	14.5	26.8	4.4	7.9	1.9	7.2	1.0	0.2
女性 / 35～49歳	12.9	8.0	22.7	28.2	6.8	10.3	3.1	6.6	0.5	0.9
男性 / 50～79歳	23.2	4.5	40.6	4.4	5.3	4.2	8.7	7.5	1.0	0.6
女性 / 50～79歳	9.1	3.6	44.3	3.6	5.8	6.2	15.8	9.5	0.5	1.7
	太字 全体より5pt以上高い									単位 (%)

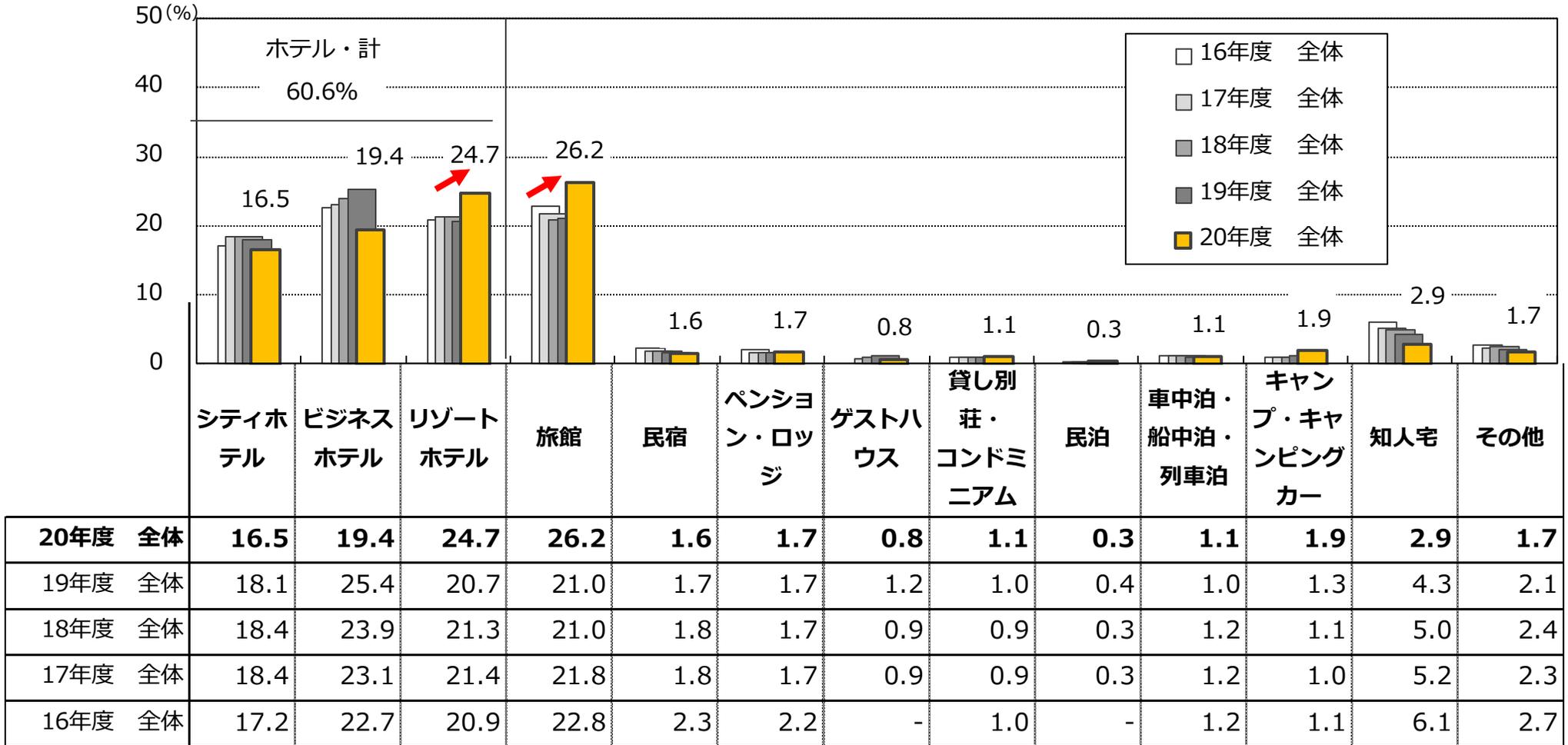
<前年との差>

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子連れ家族旅行	中学生以上の子連れ家族旅行	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他
全体	▲0.8	1.2	4.5	0.1	0.1	▲0.3	▲0.4	▲2.6	▲1.6	▲0.3
男性 / 20～34歳	▲3.8	1.5	3.9	▲0.3	0.8	1.2	▲0.3	▲0.7	▲1.9	▲0.1
女性 / 20～34歳	▲2.7	2.8	2.5	1.8	▲0.2	1.9	▲0.7	▲3.9	▲1.3	▲0.2
男性 / 35～49歳	0.7	1.4	2.1	▲0.5	0.4	▲0.6	▲0.5	▲1.1	▲1.7	▲0.2
女性 / 35～49歳	0.2	1.4	2.6	2.8	▲1.6	▲1.1	▲1.1	▲2.5	▲0.6	0.0
男性 / 50～79歳	2.0	0.2	4.3	▲0.8	0.1	▲0.7	0.6	▲2.8	▲2.5	▲0.6
女性 / 50～79歳	▲3.4	0.4	9.1	▲0.2	1.0	▲1.0	▲0.3	▲3.9	▲1.4	▲0.2
										単位 (pt)

宿泊施設

- 「旅館」が最も高くなり26.2%、前年度より5.2pt上昇。「リゾートホテル」も4.0pt上昇し24.7%で続く。
- 「ビジネスホテル」（19.4%）が前年度より6.0pt減少。

■ 宿泊施設（単一回答／延べ宿泊旅行件数ベース）



※「ゲストハウス」「民泊」は17年度に追加

性年代別 宿泊施設

- 女性/20～34歳では「ビジネスホテル」が大きく減少し、「旅館」「リゾートホテル」が増加。
- 男女とも35～49歳では「キャンプ・キャンピングカー」の増加幅が大きい。

■ 宿泊施設（単一回答/延べ宿泊旅行件数ベース）

	シティ ホテル	ビジネス ホテル	リゾート ホテル	旅館	民宿	ペンシ ョン・ロッ ジ	ゲスト ハウス	貸し別荘・ コンドミニ アム	民泊	車中泊・ 船中泊・ 列車泊	キャンプ・ キャンピ ングカー	知人宅	その他
全体	16.5	19.4	24.7	26.2	1.6	1.7	0.8	1.1	0.3	1.1	1.9	2.9	1.7
男性 / 20～34歳	16.7	26.0	18.6	24.0	1.8	1.5	1.4	1.0	0.8	1.1	1.9	3.8	1.3
女性 / 20～34歳	17.7	20.0	19.6	29.1	1.4	1.8	0.9	1.1	0.3	0.7	1.5	4.7	1.0
男性 / 35～49歳	16.7	25.0	21.1	22.7	2.1	2.0	0.6	1.0	0.3	1.6	3.5	2.1	1.3
女性 / 35～49歳	17.2	17.5	22.7	27.4	1.9	2.4	0.7	1.5	0.4	1.0	3.4	2.5	1.4
男性 / 50～79歳	15.3	19.9	26.8	25.2	1.6	1.6	0.6	1.2	0.3	1.5	1.8	2.5	1.7
女性 / 50～79歳	16.5	13.4	30.8	28.2	1.1	1.3	0.7	0.8	0.2	0.7	0.8	2.8	2.7

太字 全体より5pt以上高い

単位 (%)

<前年との差>

	シティ ホテル	ビジネス ホテル	リゾート ホテル	旅館	民宿	ペンシ ョン・ロッ ジ	ゲスト ハウス	貸し別荘・ コンドミニ アム	民泊	車中泊・ 船中泊・ 列車泊	キャンプ・ キャンピ ングカー	知人宅	その他
全体	▲1.6	▲6.0	4.0	5.2	▲0.1	0.0	▲0.4	0.1	▲0.1	0.1	0.6	▲1.4	▲0.4
男性 / 20～34歳	▲1.3	▲5.7	3.9	5.5	▲0.3	▲0.2	▲0.8	0.1	0.2	0.0	0.8	▲1.4	▲0.9
女性 / 20～34歳	▲1.4	▲8.8	4.7	8.6	▲0.4	▲0.2	▲1.6	0.0	▲0.3	0.1	0.7	▲1.4	▲0.2
男性 / 35～49歳	▲0.2	▲5.6	1.9	4.0	0.0	0.1	▲0.5	0.0	▲0.2	0.2	1.2	▲0.9	▲0.1
女性 / 35～49歳	▲1.0	▲7.4	3.2	5.8	▲0.1	0.5	▲0.3	0.0	0.1	▲0.2	1.0	▲1.2	▲0.4
男性 / 50～79歳	▲0.7	▲4.7	3.4	3.5	▲0.2	0.0	▲0.2	▲0.1	0.1	0.3	0.6	▲1.5	▲0.7
女性 / 50～79歳	▲3.6	▲6.0	6.0	5.5	▲0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	▲0.1	0.0	▲1.7	▲0.1

単位 (pt)

③ 宿泊旅行先の変化



来訪先の変化

- 延べ宿泊旅行者数は北海道が調査開始以来初の1位を獲得、東京都は2位に後退。
- トップ10のシェアは46.9%、前年度（53.1%）より上位のシェアが下がり、地域の分散化が進んだ。

■ 都道府県別の延べ宿泊旅行者数（推計値） ※上位10都道府県

全体							増減傾向			
2020年度 推計値		順位 変動	2019年度 推計値	2018年度 推計値	2017年度 推計値	2016年度 推計値	20← 19	19← 18	18← 17	17← 16
全 国	7,256万人		13,575万人	14,777万人	14,556万人	14,358万人	-	-	+	+
1位 北海道	526万人	↑	2位 1,091万人	2位 1,134万人	1,066万人	988万人	-	-	+	+
2位 東京都	430万人	↓	1位 1,447万人	1位 1,573万人	1,541万人	1,527万人	-	-	+	+
3位 静岡県	373万人	↑	4位 665万人	4位 733万人	773万人	723万人	-	-	-	+
4位 長野県	351万人	↑	5位 630万人	6位 693万人	702万人	671万人	-	-	-	+
5位 神奈川県	347万人	↑	6位 584万人	5位 705万人	710万人	708万人	-	-	-	+
6位 京都府	301万人	↑	7位 549万人	7位 623万人	637万人	618万人	-	-	-	+
7位 大阪府	282万人	↓	3位 739万人	3位 809万人	775万人	697万人	-	-	+	+
8位 兵庫県	275万人	↑	11位 457万人	11位 485万人	472万人	484万人	-	-	+	-
9位 沖縄県	265万人	↑	10位 474万人	9位 533万人	540万人	449万人	-	-	-	+
10位 千葉県	249万人	↓	9位 510万人	8位 619万人	553万人	564万人	-	-	+	-
上位10位・計の構成比	46.9%		53.1%	53.6%	53.6%	52.0%				
11位~20位・計の構成比	24.9%		24.6%	24.0%	24.2%	24.4%				
21位以下・計の構成比	35.0%		29.8%	30.0%	30.0%	31.5%				

県内旅行比率（近隣化の検証）

- 県内旅行の割合は、全体で23.9%。前年度と比べて13.8pt上昇し、近隣化の傾向がみられる。
- もともと道内観光が盛んと言われる北海道で県内旅行の割合1位。東北から4県、九州から2県がトップ10にランクイン。
- 前年度との差が最も大きかった（近隣化が急激に進んだ）のは秋田県。次いで岩手県、鹿児島県。

■ 居住都道府県別 県内旅行の割合 上位10県

(%)

2020年度		
全体		23.9
1位	北海道	76.7
2位	秋田県	61.0
3位	岩手県	59.5
4位	沖縄県	55.2
5位	鹿児島県	49.9
6位	新潟県	48.1
7位	山形県	47.7
8位	長野県	42.7
9位	青森県	42.4
10位	熊本県	41.9

■ 居住都道府県別 県内旅行の増減差 上位10県

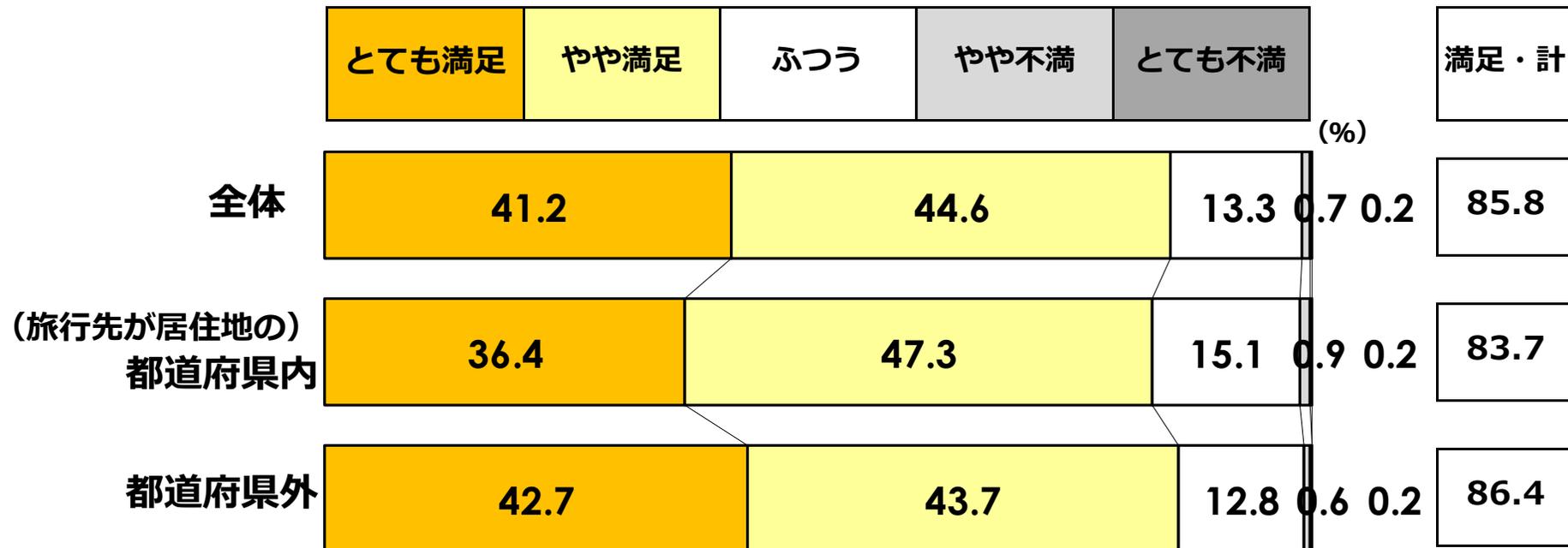
(%)

2019年度→2020年度		
全体		+13.8
1位	秋田県	+54.9
2位	岩手県	+42.5
3位	鹿児島県	+35.3
4位	徳島県	+35.0
5位	山形県	+33.6
6位	沖縄県	+32.9
7位	青森県	+32.2
8位	新潟県	+31.8
9位	鳥取県	+30.5
10位	愛媛県	+30.1

県内旅行／県外旅行別 総合満足度の比較

- 県内・県外旅行別に総合満足度を比較してみると、「とても満足」で見ると県内は36.4%、県外は42.7%で、6.3ptの差があるが、「満足・計」では2.7ptと差は大きくない。

■ 県内旅行／県外旅行別 総合満足度（単一回答／旅行件数ベース）





とーりまかし61号「危機に負けない地域の条件」P28【仮説】新型コロナウイルスによる旅行価値観への影響 より

④Go To トラベルキャンペーンの 利用実態と効果検証

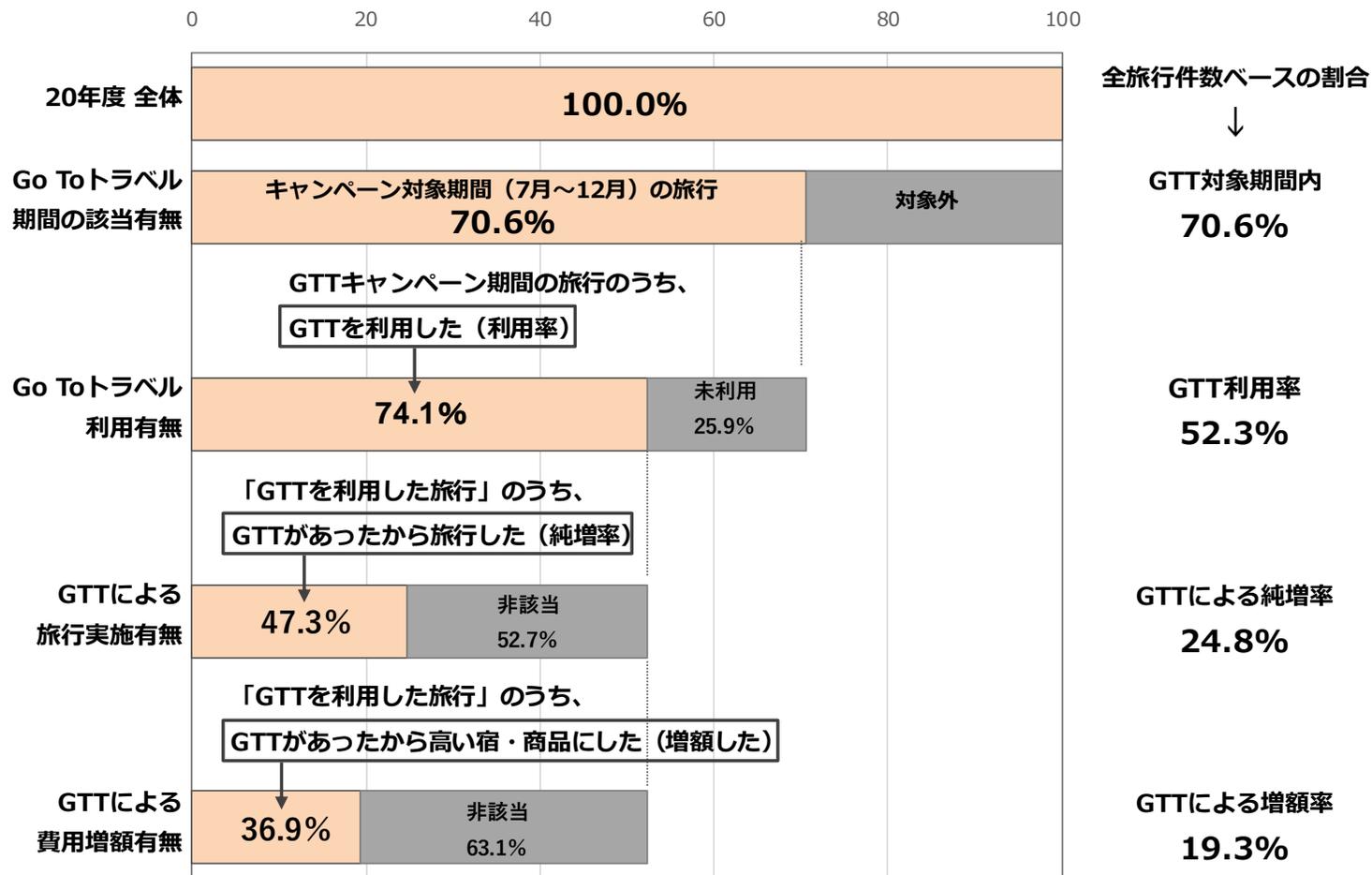
(調査対象者からの回答数値による)



Go Toトラベルキャンペーン 利用実態（調査対象者からの回答数値による）

- Go To トラベルキャンペーン（GTT）実施時期に、キャンペーンを利用して旅行した割合は74.1%。また、そのうち「GTTがあったから旅行した」割合は47.3%、「GTTがあったから増額した」割合は36.9%。
- 2020年度におけるすべての旅行に占めるGTT利用の割合は52.3%。約半数の旅行がGTT利用によるものであった。

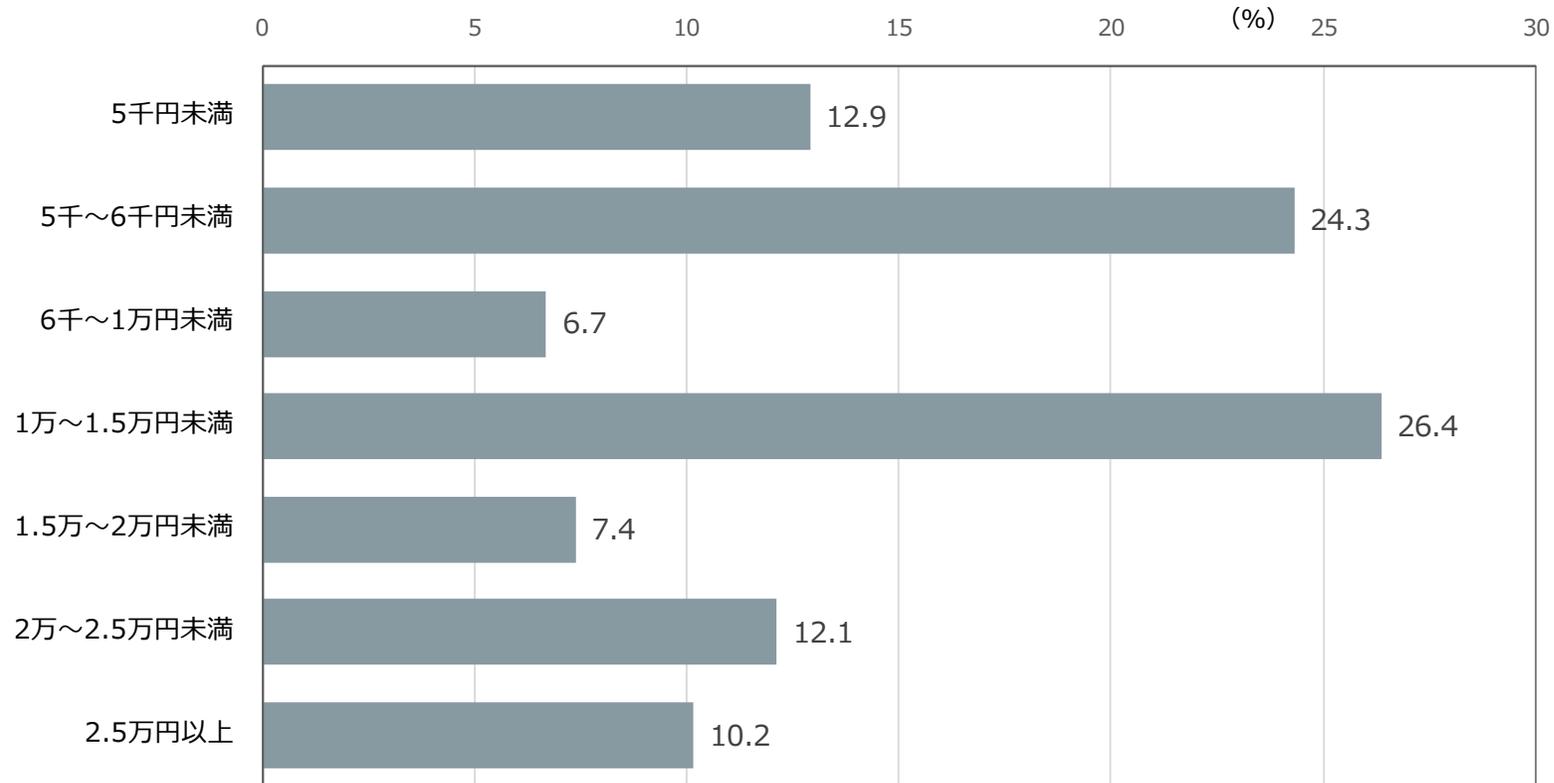
■ Go To トラベルキャンペーン 利用状況



Go To トラベルキャンペーン 利用実態（調査対象者からの回答数値による）

- キャンペーン利用者に対し、通常の旅行と比べてどの程度増額したかを尋ねたところ、「1万～1.5万円未満」と回答した人が26.4%、次いで「5千～6千円未満」が24.3%で続く。
- 平均すると、大人一人あたり11,900円程度を増額したことになる。

■ Go To トラベルキャンペーンによる大人1人あたりの増額金額（キャンペーン利用者／単一回答）



平均アップ金額	1万1,900円
十の位四捨五入	

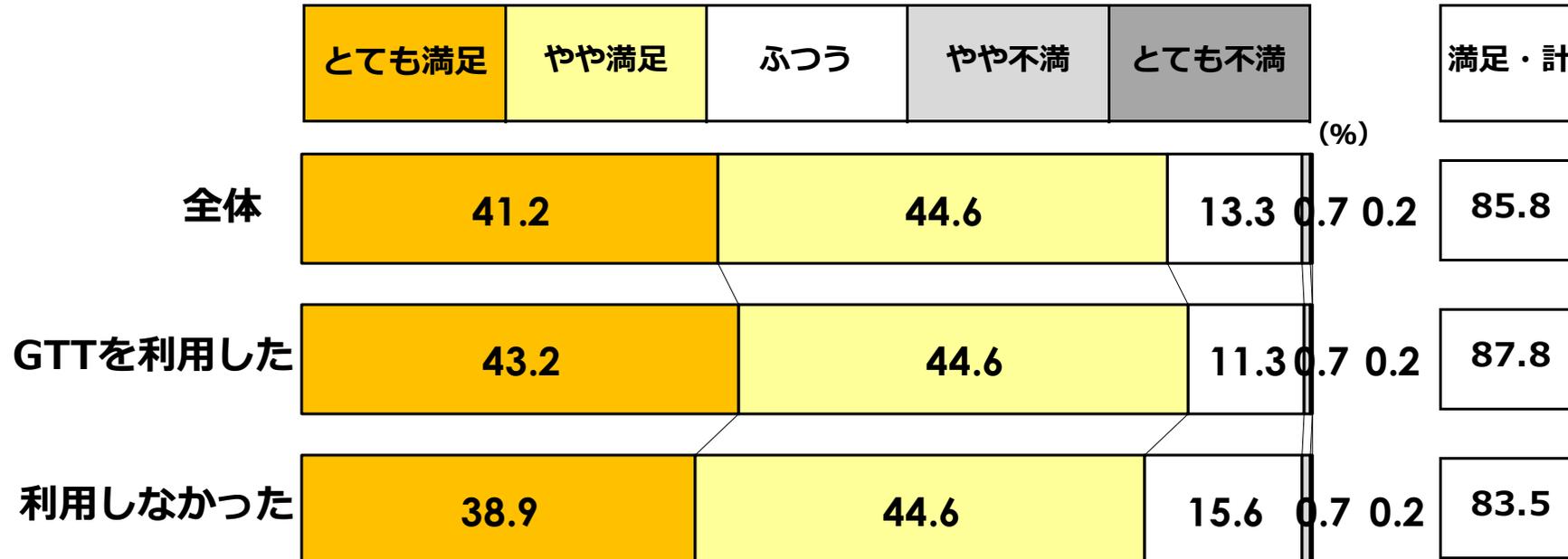
Go Toトラベルキャンペーン 利用別にみる旅行実態まとめ（調査対象者からの回答数値による）

	Go To 利用者	Go To 未利用者
属性	女性、特に 50～79歳 の比率が高く、28.2%を占める	男性比率が高い
同行者	① 夫婦二人 （32.7%） ②一人旅（14.0%） ③小学生以下の子連れ家族旅行（11.6%） 他、未利用者と比べて「 親連れ家族旅行 」が高め	①夫婦二人（26.4%） ② 一人旅 （22.0%） ③小学生以下の子連れ家族旅行（11.6%） 他、利用者と比べて「 恋人 」が高め
旅行先	県内旅行23.4% 居住ブロック内旅行48.2%	県内旅行 24.9% 居住ブロック内旅行 51.3% *関東ブロックが21.8%と高め
旅行目的	① 宿でのんびり （48.6%） ② 温泉や露天風呂 （46.3%） ③ 地元の美味しいもの （45.8%） *他、未利用者と比べて「 名所、旧跡 」「 テーマパーク 」「 まちあるき 」が高め	①宿でのんびり（44.9%） ②温泉や露天風呂（38.1%） ③地元の美味しいもの（37.1%） *他、利用者と比べて「 アウトドア 」「 スポーツ 」「 友人・親戚を訪ねる 」が高め
宿泊数	平均泊数1.67泊	平均泊数 1.82 泊
旅行日	夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行10.5% 土日利用 54.4% 平日旅行比率 35.1%	夏休み・GW・年末年始等の長期休暇を利用した旅行 14.4% 土日利用51.7% 平日旅行比率33.9%
宿泊施設	① 旅館 （30.1%） ② リゾートホテル （28.4%） ③ ビジネスホテル （18.0%）	① 旅館 （21.9%） ② ビジネスホテル （21.0%） ③ リゾートホテル （20.6%）

Go To トラベルキャンペーン 利用別にみる旅行実態【総合満足度】 (調査対象者からの回答数値による)

- GTTを利用した旅行の満足度は「とても満足」が43.2%、「やや満足」(44.6%)を合わせた「満足・計」は87.8%。
- GTTを利用した旅行の方が「とても満足」が4.3pt高く、利用しなかった旅行を上回った。

■ Go To トラベルキャンペーン利用実態 (単一回答/旅行件数ベース)



⑤地域別の傾向



<北海道ブロック>

- 推計旅行者数
2020年度： 526万人
(2019年度：1091万人)
- 旅行費用
(大人一人当たり)
：7万5,400円
- 個人旅行比率：85.3%

<九州ブロック>

- 推計旅行者数
2020年度： 886万人
(2019年度：1559万人)
- 旅行費用
(大人一人当たり)
：5万1,100円
- 個人旅行比率：90.7%

<沖縄ブロック>

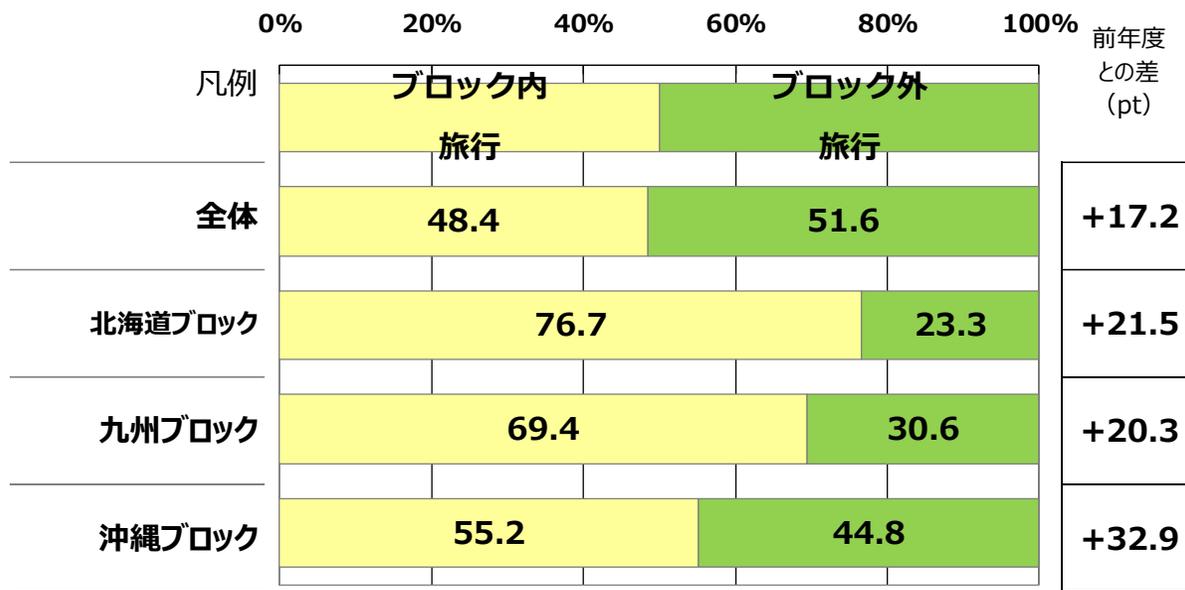
- 推計旅行者数
2020年度：265万人
(2019年度：474万人)
- 旅行費用
(大人一人当たり)
：10万7,800円
- 個人旅行比率：77.0%

※旅行費用全体 5万1,800円 個人旅行比率全体 91.6%

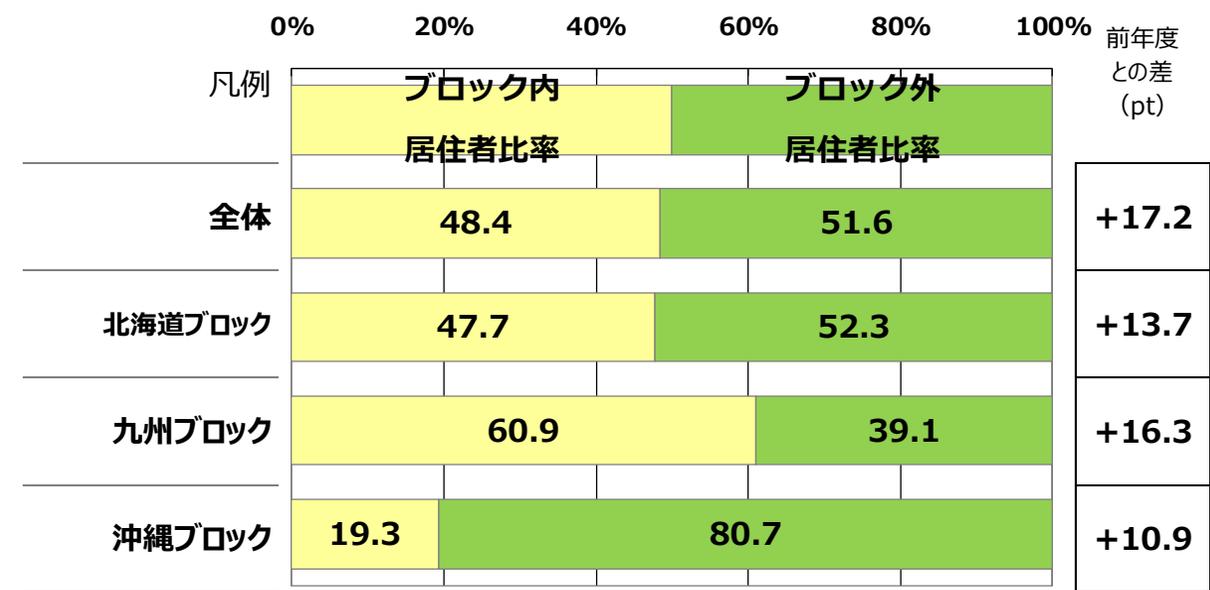
来訪先の変化 居住ブロック別、宿泊先ブロック別の前年度比較

- 居住地からみた同ブロック内の旅行は全体で48.4%、前年度より17.2pt上昇。
- 北海道居住者は76.7%がブロック内旅行。九州が69.4%、沖縄が55.2%といずれも全体値を上回る。
- 宿泊先ブロック別にみると、九州ブロックにおいてブロック内居住者の比率が高く、6割を占める。沖縄ブロックは8割がブロック外居住者。

■ 居住ブロック別：宿泊先ブロック内・外比率の変化



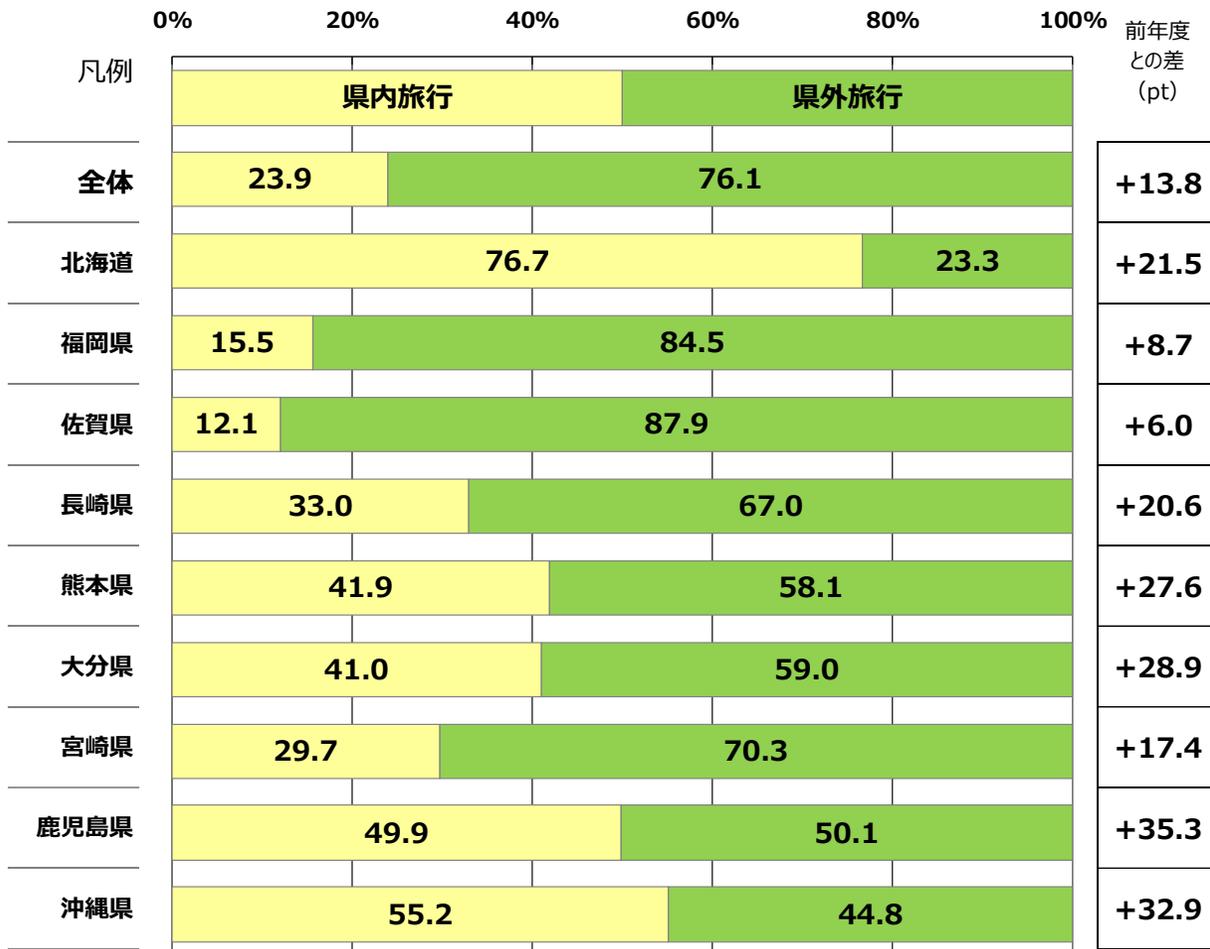
■ 宿泊先ブロック別：居住ブロック内・外比率の変化



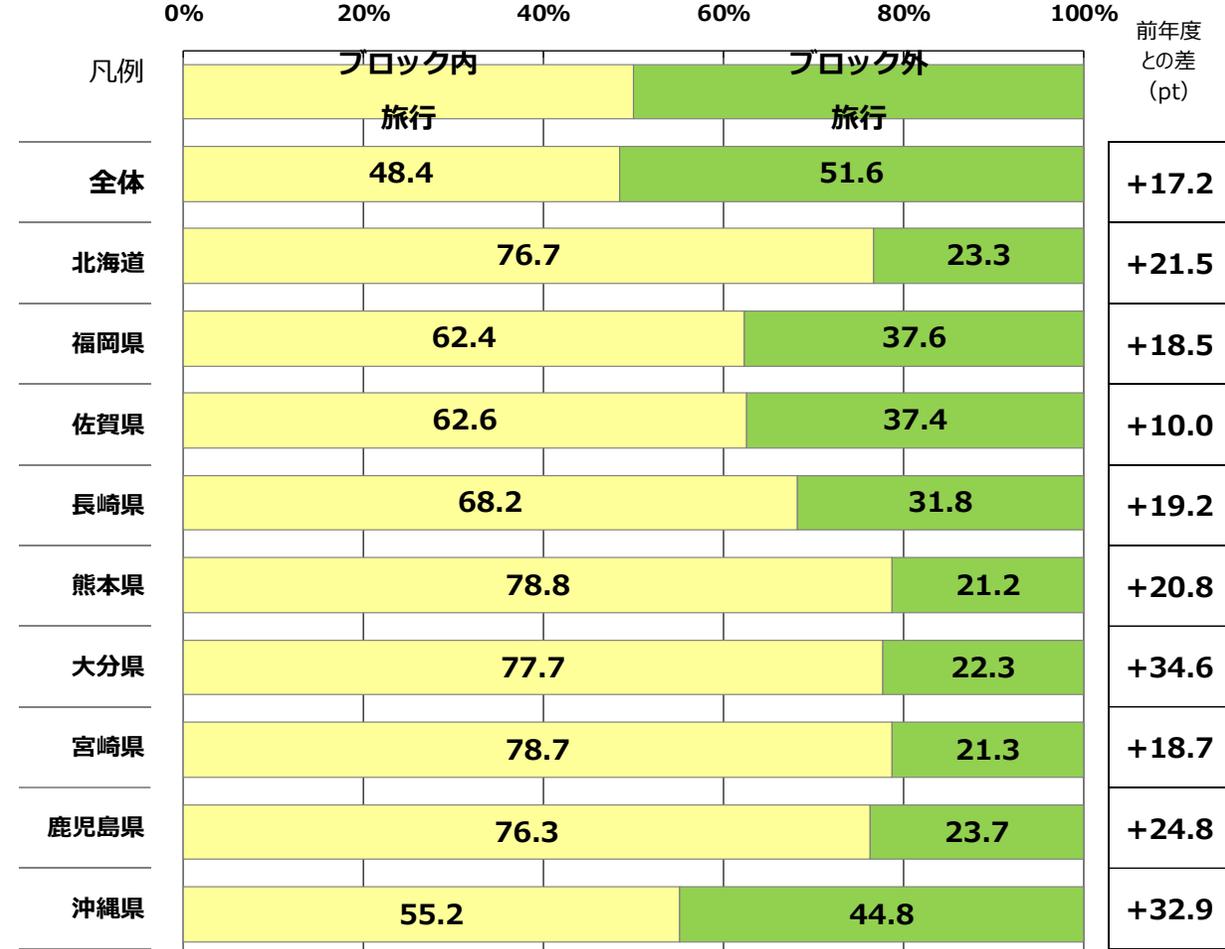
来訪先の変化 居住都道府県別の前年度比較

- 九州では佐賀県、福岡県の県内旅行比率が低く2割に届かず。鹿児島県で49.9%と半数近くを占める。
- 宿泊先をブロック別でみると、北海道、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県はブロック内旅行が7割以上を占める。

■ 居住都道府県別：宿泊先都道府県内・外比率の変化



■ 居住都道府県別：宿泊先ブロック内・外比率の変化



⑥旅行先への評価（満足度）

テーマ別・都道府県別魅力度ランキング



<ランキングの算出方法>

各テーマに関して、訪問した都道府県の評価を「そう思う」「ややそう思う」「普通」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。「そう思う」「ややそう思う」の合計した割合が多い順に都道府県をランキング。そのうち、特定ブロックのデータを抜粋。
※集計は延べ宿泊旅行件数ベース



都道府県別魅力度ランキング【地元ならではの美味しい食べ物が多かった】

石川県は4年連続1位 北陸3県が健闘

- 上位に入る県はいずれもいわゆる“海あり県”だが、石川県は「能登牛」や「近江町市場」、高知県の「鍋焼きラーメン」「皿鉢料理」など、海鮮以外の名前も挙がり、バラエティに富んだ食材や郷土料理が強み。

20年度 順位		19年度
全体平均	63.7	63.2
1位 石川県	80.0	
2位 高知県	78.8	
3位 福井県	74.6	
4位 宮城県	73.9	
5位 徳島県	73.8	
6位 青森県	73.6	
6位 香川県	73.6	
8位 北海道	73.3	
9位 山形県	73.0	
10位 富山県	72.9	

※ 単一回答／「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

＜北海道、沖縄＞	
14位 沖縄県	71.6

＜九州＞	
12位 福岡県	72.0
13位 佐賀県	71.9
15位 長崎県	71.0
16位 熊本県	70.9
19位 鹿児島県	69.8
20位 大分県	69.3
27位 宮崎県	66.7

※都道府県別FA抜粋

＜北海道、沖縄ブロック＞

【北海道】 魚介類、ジンギスカン、ラーメン、カニ、海鮮丼、寿司
 【沖縄県】 沖縄そば、ソーキそば、郷土料理、海ぶどう、ステーキ

＜九州ブロック＞

【福岡県】 もつ鍋、豚骨ラーメン、明太子、魚介類、博多ラーメン
 【佐賀県】 いか、佐賀牛、温泉湯豆腐、魚介類、かに、嬉野茶
 【長崎県】 ちゃんぽん、魚介類、佐世保バーガー、刺身、皿うどん
 【熊本県】 馬刺し、あか牛、熊本ラーメン、魚介類、海老、そば
 【大分県】 とり天、豊後牛、関サバ、魚介類、関アジ、だご汁
 【宮崎県】 チキン南蛮、地鶏、宮崎牛・高千穂牛、伊勢海老、うどん
 【鹿児島県】 黒豚、魚介類、さつまあげ、ラーメン、とんかつ、鶏飯

都道府県別魅力度ランキング【魅力のある特産品や土産物が多かった】

沖縄県は16年連続1位 食も含めた品揃えが 上位県の強み

- 1位の沖縄県は「ちんすこう」「海ぶどう」など地域性の強い食を中心とした土産物が人気。

20年度 順位		19年度
全体平均	52.0	52.3
1位 沖縄県	65.9	
2位 青森県	64.9	
3位 石川県	64.0	
4位 高知県	63.4	
5位 北海道	61.8	
6位 長崎県	59.9	
7位 徳島県	59.3	
8位 宮城県	59.1	
8位 山形県	59.1	
8位 宮崎県	59.1	

※都道府県別FA抜粋

<北海道、沖縄ブロック>

【北海道】 海産物、お菓子、白い恋人、六花亭、かに、昆布
 【沖縄県】 ちんすこう、紅芋タルト、黒糖、海ぶどう、泡盛、マンゴー

<九州ブロック>

【福岡県】 辛子明太子、銘菓、ラーメン、あまおう、もつ鍋
 【佐賀県】 嬉野茶、いか、羊羹、海産物、湯豆腐
 【長崎県】 カステラ、海産物、湯せんべい、テーマパーク、干物、チーズ
 【熊本県】 からしレンコン、海産物、くまモン、馬刺し、高菜
 【大分県】 かぼす、湯の華、ゆず胡椒、椎茸、プリン
 【宮崎県】 マンゴー、地鶏、チーズ饅頭、焼酎、道の駅
 【鹿児島県】 焼酎、さつまあげ、かるかん、黒豚、かつお

<九州>

12位 鹿児島県	58.3
15位 福岡県	56.6
23位 熊本県	54.2
24位 佐賀県	53.9
26位 大分県	53.0

※ 単一回答 / 「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

都道府県別魅力度ランキング【地元の人ホスピタリティを感じた】

沖縄県が16年連続1位 2位の宮崎県は2年連続

- 今年は島根県が10位にランクイン。
- 上位に挙がる県は宿や観光施設、アクティビティなどタッチポイントにおける接客レベルが高いことに加え、住民のホスピタリティ（親切、フランクである）も影響が大きい。「商売っ気がなく好感が持てる」などの声も。

20年度 順位		19年度
全体平均	27.7	26.6
1位 沖縄県	45.2	
2位 宮崎県	34.4	
3位 北海道	33.4	
4位 山形県	32.8	
5位 秋田県	32.6	
6位 徳島県	32.5	
7位 青森県	32.0	
8位 福島県	31.3	
9位 熊本県	31.2	
10位 島根県	31.1	

※ 単一回答 / 「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

※都道府県別FA抜粋

<北海道、沖縄ブロック>

【北海道】 宿、店、札幌、市場・朝市、温泉、道の駅
 【沖縄県】 宿、店、居酒屋、国際通り、那覇、タクシー

<九州ブロック>

【福岡県】 宿、店、博多、天神、屋台、中洲
 【佐賀県】 宿、店、温泉、武雄
 【長崎県】 宿、店、テーマパーク、長崎市
 【熊本県】 宿、店、温泉、阿蘇、道の駅
 【大分県】 宿、店、別府、温泉、湯布院
 【宮崎県】 宿、店、青島、宮崎市
 【鹿児島県】 宿、店、温泉、道の駅、桜島

<九州>

11位 大分県	30.9
14位 鹿児島県	30.6
19位 長崎県	29.4
27位 福岡県	26.9
35位 佐賀県	25.3

都道府県別魅力度ランキング【魅力的な宿泊施設が多かった】

沖縄県が6年ぶりに1位 温泉、リゾートを擁する エリアが上位に

- 満足度が全体平均で5.6pt上昇。近隣旅、おこもり旅が増えた影響か。
- 調査開始以来1位と2位を競っているのは沖縄県と大分県。今年には沖縄県が1位を獲得。
- 温泉地やリゾートエリアを擁する地域が上位に。

20年度 順位		19年度
全体平均	52.1	46.5
1位 沖縄県	63.6	
2位 大分県	61.9	
3位 神奈川県	61.1	
4位 群馬県	60.3	
4位 和歌山県	60.3	
6位 熊本県	58.7	
7位 佐賀県	58.0	
8位 北海道	57.4	
9位 静岡県	56.8	
10位 鹿児島県	56.5	

※都道府県別FA抜粋

<北海道、沖縄ブロック>

【北海道】 温泉、札幌、函館、リゾートホテル、ビジネスホテル、定山溪
 【沖縄県】 リゾートホテル、恩納村、那覇、名護、宮古島

<九州ブロック>

【福岡県】 博多、ビジネスホテル、シティホテル、温泉、原鶴・筑後川
 【佐賀県】 嬉野、唐津、温泉、旅館、武雄
 【長崎県】 テーマパーク、リゾートホテル、雲仙、温泉、旅館
 【熊本県】 温泉、黒川、旅館、熊本、阿蘇
 【大分県】 別府、温泉、湯布院、旅館、リゾートホテル
 【宮崎県】 リゾートホテル、高千穂、青島、ビジネスホテル
 【鹿児島県】 霧島、指宿、温泉、鹿児島市、旅館

<九州>

13位 長崎県	56.1
34位 福岡県	45.2
34位 宮崎県	45.2

※ 単一回答/「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

都道府県別魅力度ランキング【現地で良い観光情報を入手できた】

沖縄県が10年連続1位 ネット、SNSが増加

- ホテルや飲食店、観光地、案内所、パンフレットといった情報収集手段に加え、インターネット、SNSが増加傾向。
- 1位の沖縄県は地元の人からの情報、2位の京都府は「どこでも情報が手に入りやすい」という声も。

20年度 順位		19年度
全体平均	27.2	28.4
1位 沖縄県	42.0	
2位 京都府	35.7	
3位 石川県	33.4	
4位 徳島県	33.3	
5位 青森県	32.7	
5位 香川県	32.7	
7位 北海道	31.7	
8位 島根県	31.3	
9位 山梨県	31.2	
9位 長崎県	31.2	

※ 単一回答 / 「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

<九州>

12位 大分県	30.4
14位 鹿児島県	29.2
16位 熊本県	29.0
19位 宮崎県	28.2
29位 福岡県	26.4
40位 佐賀県	22.0

※都道府県別FA抜粋

<北海道、沖縄ブロック>

- 【北海道】 宿、観光案内所、道の駅、駅、ネット、パンフレット
- 【沖縄県】 宿、観光案内所、地元の人、道の駅、国際通り、店

<九州ブロック>

- 【福岡県】 宿、ネット、店、観光案内所、駅
- 【佐賀県】 宿、駅、城、パンフレット
- 【長崎県】 宿、テーマパーク、温泉、観光案内所、店
- 【熊本県】 宿、道の駅、温泉、店、観光案内所
- 【大分県】 宿、観光案内所、温泉、別府、湯布院
- 【宮崎県】 宿、駅・列車、観光案内所
- 【鹿児島県】 宿、観光案内所、鹿児島市、温泉、道の駅

都道府県別魅力度ランキング【ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた】

自然を中心とした アクティビティが人気

- 1位の沖縄県はシュノーケリングや釣りなどのマリンスポーツが中心だが、水牛車や離島ツアーなどの回答も。
- 2位の山梨県は富士山周辺のアウトドアが人気。5位の北海道は温泉やスノーレジャー、クルーズなど。7位の青森県は奥入瀬溪流の散策など、その土地の特性を生かした自然がメインのご当地体験が多く名前が挙がっている。

20年度 順位	
全体平均	33.8
1位 沖縄県	51.8
2位 山梨県	44.2
3位 和歌山県	41.7
4位 徳島県	40.0
5位 北海道	39.1
5位 大分県	39.1
7位 青森県	39.0
8位 群馬県	38.9
8位 長野県	38.9
10位 福島県	38.3

※ 単一回答／「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合 単位 (%)

<九州>

11位 鹿児島県	37.9
17位 長崎県	36.0
21位 熊本県	34.2
30位 宮崎県	30.9
43位 佐賀県	25.4
44位 福岡県	24.6

※都道府県別FA抜粋

<北海道、沖縄ブロック>

- 【北海道】 温泉、山・登山、スキー、知床半島、湖、海・クルーズ
- 【沖縄県】 マリンスポーツ、海・ビーチ、離島、リゾートホテル

<九州ブロック>

- 【福岡県】 温泉、海・海水浴、神社、スポーツ観戦
- 【佐賀県】 温泉、海・釣り、公園
- 【長崎県】 温泉、テーマパーク、海・クルーズ、軍艦島
- 【熊本県】 温泉、海・イルカウォッチング、乗馬、山・渓谷
- 【大分県】 温泉・地獄巡り、山・火山、動物園・遊園地
- 【宮崎県】 温泉、サーフィン・海水浴、高千穂峡巡り
- 【鹿児島県】 温泉・砂風呂、山・登山、マリンスポーツ、屋久杉

都道府県別魅力度ランキング 総合満足度

沖縄県が1位を獲得
2位に福井県が躍進
山梨県が6位にランクイン

- 福井県は「地元ならではの美味しい食べ物が多かった」ランキングでも躍進。県内旅行が増加し、カニ+宿ののんびり旅が評価された。
- 10位に宮城県が前年圏外からランクイン。

20年度 順位		19年度	
全体平均	85.8		84.8
1位 沖縄県	91.6	1位	93.1
2位 福井県	89.0	38位	81.1
2位 京都府	89.0	3位	89.3
4位 石川県	88.9	7位	88.5
5位 北海道	88.8	5位	89.0
6位 山梨県	88.7	33位	83.8
6位 岐阜県	88.7	39位	80.6
8位 和歌山県	88.3	10位	88.1
9位 大分県	88.2	9位	88.3
10位 宮城県	88.0	15位	86.7

15位 宮崎県	87.3	2位	89.5
17位 長崎県	87.1	14位	87.3
19位 熊本県	86.6	12位	87.6
25位 鹿児島県	85.3	8位	88.4
27位 福岡県	85.1	16位	86.6
40位 佐賀県	82.3	41位	78.9

※ 単一回答 / 「とても満足」「やや満足」と答えた人の割合 単位 (%)

石川県が3位、 千葉県が7位に上昇

- 「地元ならではの美味しい食べ物が多かった」ランキングで1位の石川県が上位に挙がってくる。
- 大分県が上昇、さらに鹿児島県がランクイン。

20年度 順位	
全体平均	41.2
1位 沖縄県	53.8
2位 北海道	46.9
3位 石川県	46.4
3位 和歌山県	46.4
5位 大分県	46.2
6位 兵庫県	45.1
7位 千葉県	44.9
8位 京都府	44.7
9位 徳島県	44.6
10位 鹿児島県	43.6

15位 福岡県	41.3
17位 長崎県	40.8
24位 熊本県	40.0
31位 宮崎県	39.1
42位 佐賀県	33.9

参考：再掲 総合満足度の順位

20年度 順位	
全体平均	85.8
1位 沖縄県	91.6
2位 福井県	89.0
2位 京都府	89.0
4位 石川県	88.9
5位 北海道	88.8
6位 山梨県	88.7
6位 岐阜県	88.7
8位 和歌山県	88.3
9位 大分県	88.2
10位 宮城県	88.0

※ 単一回答／「とても満足」と答えた人の割合 単位（％）

本研究に関するお問い合わせ

株式会社リクルート
じゃらんリサーチセンター
jalan_rc@r.recruit.co.jp

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

- 本資料は、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。
事前に当社までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮頂く場合もございます、予めご了承ください。

※問い合わせ先

[メディア・報道機関の皆様]株式会社リクルート 広報担当 <https://www.recruit.co.jp/support/form/>
[その他企業・自治体・一般の皆様]じゃらんリサーチセンター事務局 E-mail : jalan_rc@r.recruit.co.jp

- 本資料は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客様の判断で利用してください。
また、資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。